

各部の名称と役割

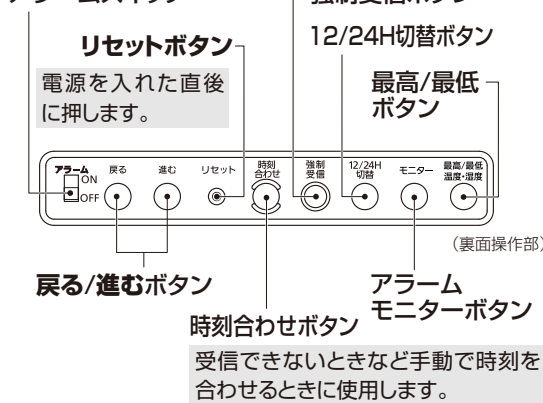
スヌーズボタン
電池のみで使用したときはライトボタン兼用



注意報表示 温度と湿度の条件により「注意」を表示。
※表示の明るさは調節できません。
※表示を見る方向により、ムラが見えたり、表示が読み取れなくなります。

アラームスイッチ

強制受信ボタン

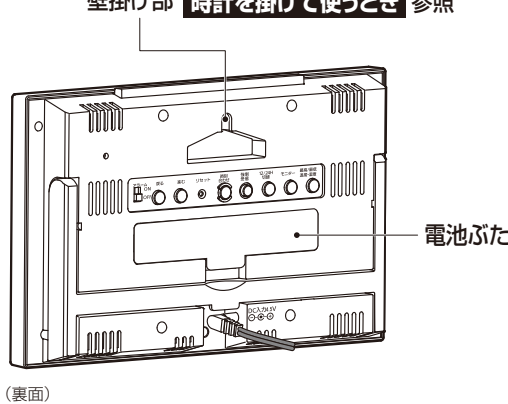


電源を入れた直後に押します。
時刻合わせボタン 受信できないときなど手動で時刻を合わせる際に使用します。

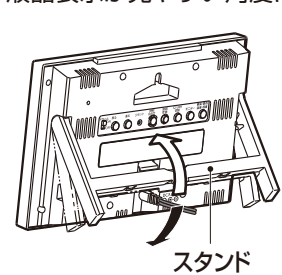
図は操作説明用ですので、実際の商品と異なることがあります。

この説明書の裏面
壁掛け部 時計を掛けて使うとき 参照

時計を置いて使うとき

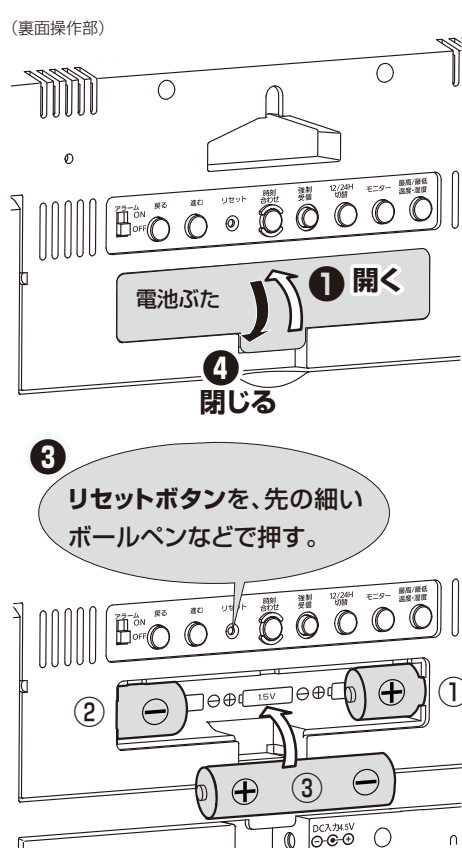


スタンドの角度は、2段階で調節できます。液晶表示が見やすい角度にしてください。



転倒を防ぐために、水平で振動の少ない安定した所に設置してください。

1 電波を受信して日時を合わせる



標準電波を利用しないで、手動で日時を合わせるときには、**手動での時刻合わせ**をお読みください。

電波の受信しやすい窓際などに置いてください。

- 電池ふたを開ける
- 電池を入れる
- リセットボタンを押す

「ピー」と鳴って、受信マークが点滅し受信を開始します。「ピー」と鳴らないときは、電波受信機能がOFFになっています。

A 電波受信機能のON/OFF操作

- 電池ふたを閉じる
- 受信開始から21分後に受信結果を確認する

受信は最長で21分程度行います。

【受信の流れと表示】参照
受信成功:受信マーク点灯
受信失敗:受信マーク消灯

受信中はボタンに触れないでください。

使い始めるときには、電池のみで標準電波を受信させて日時を合わせから、AC電源アダプターを接続してください。

これは、AC電源からの電気的なノイズを受けにくくするためです。
※電池のみでは表示部が常時点灯しませんが、スヌーズボタンを押すと約3秒間点灯します。

2 電池を入れる

電池を入れるときには、①②③の順番で入れてください。
電池を取り出すときには、③②①の順番で取り出してください。

- ⊕ ⊖を逆向きに入れると、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 古い電池と新しい電池、異なる種類の電池を混ぜないでください。

【受信の流れと表示】

電池のみのときは、表示が読み取りにくいので、確認するときはスヌーズボタンを押してください。



※電池を入れた直後およびリセットボタンを押した直後は、2010年1月1日、午前12:00、アラーム時刻 午前6:00に設定されます。

※受信マークは受信成功後、24～25時間点灯。
※受信に成功しても、ノイズにより誤った時刻を表示することがあります。このような場合は、リセットボタンを押して、再度受信を試みてください。

アドバイス

テレビ、蛍光灯などの家電製品やパソコンなどのOA機器からのノイズにより、電波を受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。このようなときは、場所を変えてからリセットボタンを押し、再度受信を試みてください。

標準電波を受信できない場合

- 朝までそのままにしておく
一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、手動で時刻合わせをして一晩そのままにしておくとう受信できる可能性が高くなります。
- 場所を変える／受信をやり直す
電波の受信しやすい窓ぎや、取扱説明書の日本地図を参考にして、時計の正面または裏面が電波の送信所に向くように置いて、リセットボタンを押して結果を確認します。

電波を受信できない場合や任意の日時に合わせるときは下記の操作で日時を合わせてご使用ください。

手動での時刻合わせ

- 操作例. 2018年12月25日 午前10:37に合わせる
- 時刻合わせボタンを西暦年が点滅するまで約2秒間押し続けます。
 - 西暦年、月、日、時刻(時、分)の順に設定します。
 - 戻る/進むボタンを押して数値を合わせます。
 - 戻る/進むボタンを押し続けると早送りになります。
 - 時刻合わせボタンを押すと次のステップに移ります。
 - 操作例を参考に設定してください。
※電波受信機能が「ON」の場合、手動で時刻合わせをしても、自動受信を行い、受信に成功すると自動的に時刻を修正します。
 - A 電波受信機能のON/OFF操作** 参照
- ※約30秒間ボタン操作をしないと、表示されている時刻に設定して、手動時刻合わせを終了します。
- ※電波を受信できない場合の時間精度は、平均月差±30秒のクォーツ精度になります。
- アラーム状態およびアラーム時刻が点滅しているときは、時刻合わせボタンを押しても、切り替わりません。
 - 午前/午後付12時間表示と24時間表示がありますので、時刻を合わせるときに注意してください。

電波受信中のボタン操作について

電波の受信中に戻るまたは進むボタンを押すか、時刻合わせボタンを約2秒間押し続けると、受信マークが消灯し受信を中止します。

電波を受信しにくい環境

次のような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。

- 工事現場、空港の近くや交通量の多い所など電波障害の起きる所
- 金属製の雨戸やブラインドの近く
- ビルの地下など
- 高圧線、テレビ塔、電車の架線近く
- 朝夕の時間帯、雨天のとき
- 家電製品やOA機器の近く
- スチール机等の金属製家具の上や近く

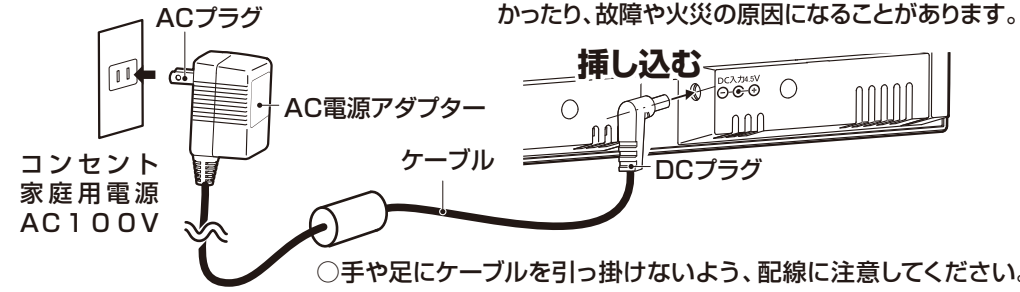
チェック!

1～2分経過しても①または②の受信状態が続く場合は受信できません。場所を変えてリセットボタンを押し、再度受信を開始させてください。

2 AC電源アダプターの接続

AC電源アダプターを接続してご使用ください。乾電池は停電対策としてご利用ください。
AC電源アダプターから電力が得られると、液晶表示部を常時照明します。乾電池のみでは、スヌーズボタンを押したときのみ、約3秒間照明します。

電波を受信しやすくするために、ノイズが発生しやすい家電製品やパソコンなどが、接続されているコンセントを使用しないでください。
必ず付属のAC電源アダプターを使用してください。
強制 他のもので使用すると、電波の受信ができなかったり、故障や火災の原因になることがあります。



○手や足にケーブルを引っ掛けないよう、配線に注意してください。
Q AC電源アダプターをコンセントから抜いたのに液晶表示部が照明されている。
Aしばらく放置すると消灯しますが、電池の消耗を防ぐために、時計からDCプラグを抜いてください。

電池のみで使用したときの照明機能について

スヌーズボタンを押すと約3秒間液晶表示面を照明します。

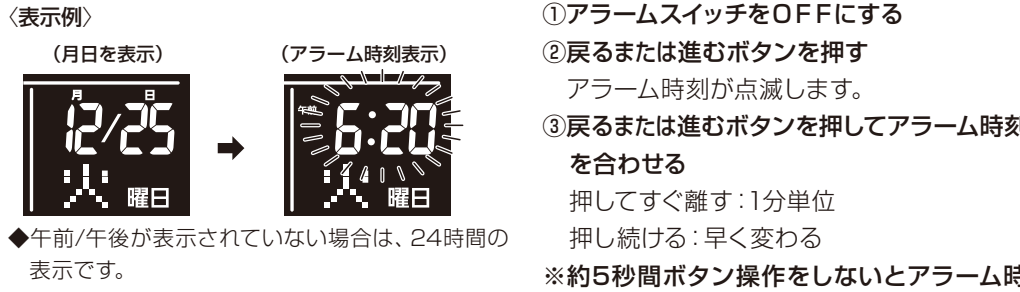
3 電池交換お知らせ機能

電池マークが表示されたときは、速やかにすべての電池を交換してください。放置すると電池から液漏れが発生して、時計の修理、家具などの修繕に費用が発生することがあります。
※電池がセットされていないときも電池マークが点灯します。
※電池の残量確認は毎正時に行います。

●AC電源アダプターを使用しているも、電池は定期的に交換して液漏れを防止してください。
マンガン乾電池は1年に1回、アルカリ乾電池にした場合は5年に1回。

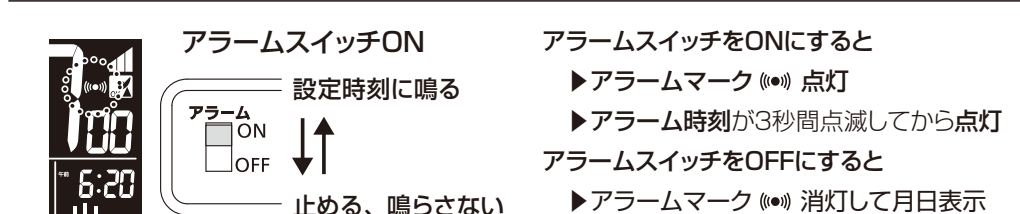
4 アラーム機能

アラーム時刻を合わせる



①アラームスイッチをOFFにする
②戻るまたは進むボタンを押す
アラーム時刻が点滅します。
③戻るまたは進むボタンを押してアラーム時刻を合わせる
押してすぐ離す：1分単位
押し続ける：早く変わる
※約5秒間ボタン操作をしないとアラーム時刻合わせを終わります。

アラームのON/OFF設定



アラームスイッチがONのときアラームマーク点灯
設定時刻に鳴る
止める、鳴らさない

アラームオートストップ機能(自動鳴り止め)

鳴っているアラームを放置すると約2分間鳴り続けて終了します。

アラーム音の確認方法

アラームモニターボタンを押すとアラームが約2分間鳴ります。途中で止めたいときは、アラームモニターボタンを押すと止まります。

アラームご使用上のご注意

アラームスイッチがONの状態では、OFFにするまで毎日アラームが鳴ります。

5 時刻表示形式の切り替え



午前/午後付12時間表示 24時間表示
12/24Hボタンを押すと時刻の表示形式が切り替わります。
表示の切り替えは電波の受信中、アラーム状態、アラーム時刻および現在時刻の設定中は切り替わりません。

6 温度・湿度・注意報表示

センサーが本体内部にあるため、表示に反映するまでには時間がかかります。
直射日光が当たる場所や冷暖房器具、加湿器、除湿器などの近くでは室内の温度・湿度を反映しにくくなります。空気がよく循環する場所に設置してください。

※湿度は「空気のかたまり」として移動するため、同じ室内でも風通しのよい所と悪い所では違いがでできます。また、設置する高さによっても温度・湿度が変わります。
※本製品は一般的な家庭やオフィスなどの室内用です。また、厳密な温度、湿度の管理や証明には使えません。

温度・湿度の最高/最低表示



最高/最低ボタンを押すと24～25時間以内の最高と最低の温度・湿度を表示します。
最高/最低ボタンを押すたびに温度と湿度の表示が、最高→最低→現在の順で切り替わります。放置すると約10秒で最高または最低の表示が消えて現在の温度・湿度表示になります。

○電波の受信中、アラーム状態、アラーム時刻や日時の設定中は切り替わりません。

測定範囲を超えたときの表示とその意味

温度「HH.H」50℃より高温 「LLL」-9.9℃より低温
湿度「HH」95%を超えている 「LL」20%未満 「--」測定不能(温度が5～50℃の範囲外)

注意報 温度と湿度の状態により、4種類の<注意報>を表示します。

注意報の種類	表示例	※表示により発生の有無を断定するものではありませんので、空調や体調管理などの目安としてお使いください。 ※公的機関から発表される「注意」や「警報」とは一致しないことがあります。
急激な温度変化	急激な温度変化	
急激な湿度変化	急激な湿度変化	
急激な気圧変化	急激な気圧変化	
急激な気象変化	急激な気象変化	

ひとくちメモ

- 熱中症
高温環境下で、体内の水分や塩分などのバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして、発症する障害の総称です。気温、気流(風)、湿度、放射熱の状態によっては、屋内外を問わず発生しやすくなります。こまめな水分補給、室温の調節、風通しをよくするなど体温の上昇を防ぐ必要があります。
- 食中毒
梅雨など高温多湿となると菌が増殖しやすくなります。
細菌による食中毒を予防する三大原則といわれているのは、
1. 菌を付けない(清潔にする)
2. 菌を増やさない(迅速に冷却、乾燥する)
3. 菌を加熱などで殺す
- インフルエンザ
湿度が低いとインフルエンザウイルスの生存率を高めるとともに、鼻・喉・気管などにある粘膜の繊毛の働きを弱め、ウイルスによる感染が起こりやすくなります。
室内の湿度を調節したり、マスクを着用するなどの対策が必要になります。
- カビ・ダニ
一般にカビ・ダニ等は、室温20～30℃、湿度70%前後が最もその生育に適した温湿度条件だといわれています。増殖を抑えるために、風通しをよくして、湿気がこもらないようにする必要があります。